

1. 万博工事期間中の交通影響等について ～前回（R6.2時点）から見直し・更新～

1-1 万博工事期間中の交通影響検討【資料3】

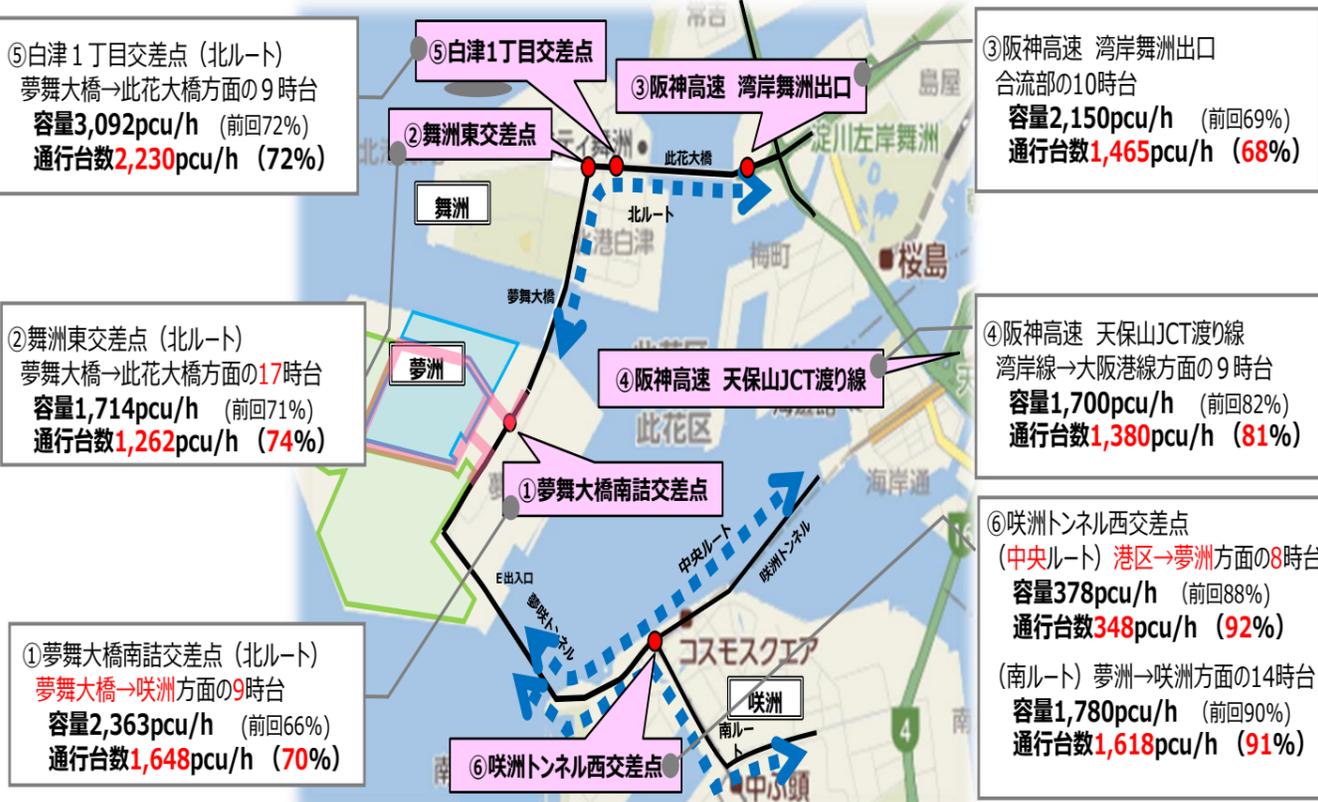
- タイプAの進捗に合わせて、**交通量予測を見直し**。
- **万博のスタッフ車両と物販車両を考慮**。
- 夢洲周辺の各ボトルネック交差点での**交通量は若干増減し、全ての地点で交通容量内に収まっている**（容量に対する割合は約**68～92%**）。

○今回見直した前提条件

- 万博工事のタイプAについて、既に着手及び着手の予定が明確になったパビリオンは、その着手時期とし、それ以外はR6年**6月**着手と想定（全工事車両のピーク日台数はR6年10月の3,368台/日→**3,229台/日**に減）。
 - 万博のスタッフ車両と物販車両を考慮（スタッフ車両は600台/日、物販車両は253台/日）。
 - IR工事車両台数の精査（R6年10月が726台/日→**755台/日**）
- ※インフラ工事車両、一般交通（物流含む）は前回と同様。

○影響検討結果のまとめ

【各検討地点の最も厳しい方向・時間帯の結果】



1-2 万博会場周辺の交通課題と対応案【資料4】

- **万博会場工事の推進に向け、更なるバックヤードの確保。（0.2ha→2.45ha）**
- **夢洲北高架橋の完成時期の更なる前倒し。**（R6年8月から工事車両の通行に活用）
- 引き続き、工事の進捗に応じて状況をきめ細かく確認し、柔軟に対応。

○対応箇所図



※ 今後の調整状況により、変更となる場合がある。

○対応スケジュール

	令和6年												令和7年		
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
工事車両対策	① 車両出入口	3か所		4か所			7か所	8か所		7か所					8か所
	② 観光外周道路での待機場所						観光外周道路の活用（約1,500m）※概ね150台分				観光外周道路の活用（約2,000m）※概ね200台分				
	③ 建設作業員の駐車場等	0台		300台		500台									1000台
	④ バックヤードの確保	0.05ha（駅前広場）			2.05ha（IR用地2.0ha追加）			2.25ha（駅前広場0.2ha追加）			2.45ha（駅前広場0.2ha追加）				
物流対策	⑤ 待機場所の整備	520台			540台						670台				
	⑥ ゲート時間延長	実施（物流車両や工事車両の多い時期を対象）													
	⑦ ゲート増設	増設工事			システム導入・設備類整備						運用				
	⑧ CONPAS	準備			本格運用										
⑨ 夢洲北高架橋の前倒し	高架橋整備			9月末⇒7月末完成に前倒し			8月より			工事車両車両への通行を活用					

※ 万博関係者の通勤車両の削減等に寄与するよう、Osaka Metro中央線の夢洲駅までの鉄道運行を万博開幕の2か月以上前の令和7年1月末に開業できるよう取り組む

●課題
コンテナ車両及び工事車両の道路上待機による道路通行への影響の可能性

●対応
入場待機場所の確保、スムーズな入場による道路上待機車両の解消

●具体策

【工事車両】	【物流車両】
① 車両出入口増設 (3⇒8箇所)	⑤ 待機場所の追加整備 (440台⇒670台分)
② 工事車両待機場所等の確保 (観光外周道路の活用)	⑥ ゲート時間延長 (早朝・昼休み時間帯)
③ 建設作業員車両用駐車場等の確保 (1000台)	⑦ ゲート増設 (17⇒22ゲート)
④ バックヤードの確保 (2.45ha)	⑧ CONPAS (R6.3.29より運用開始)
⑨ 夢洲北高架橋前倒し完成、工事用として活用 (R6.12末⇒R6.9末⇒ R6.7末)	

2. 万博開催期間中の交通影響等について ～前回（R6.2時点）から見直し・更新～

2-1 万博開催期間中の交通影響検討【資料5】

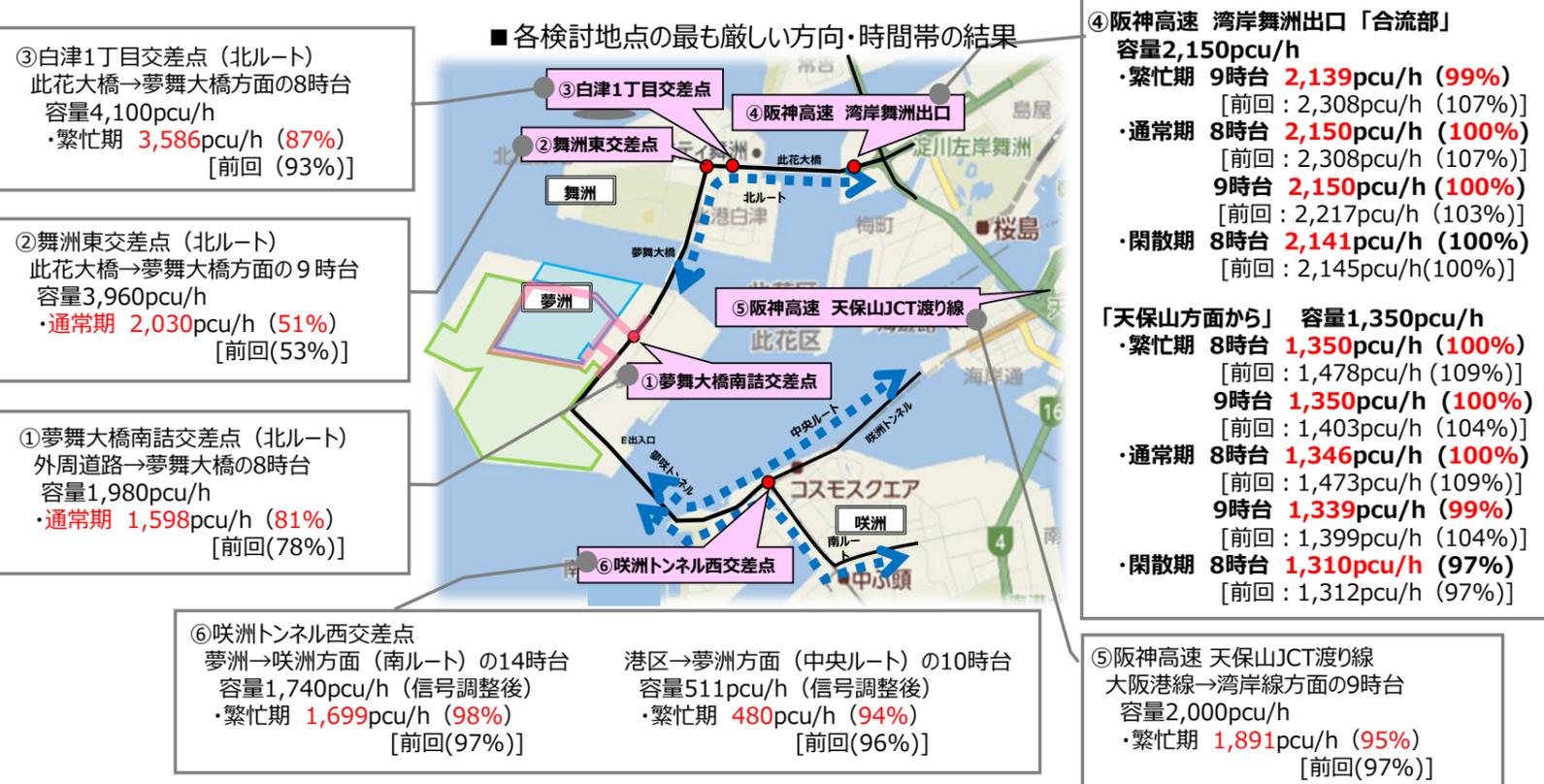
- 万博・IR・物流とも、**全てのピーク台数の予測値を合算し、厳しい条件のもと影響検討を実施。**
- **IR工事車両の調整、および万博来場者車両の予約枠のコントロールにより、前回8時、9時、10時台で容量を超過していた阪神高速湾岸舞洲出口を含め、容量内に収まった。**

○前提条件

※1:2024年7月19日公表予定

- 万博車両：日ピーク来場者（22.7万人）における台数（来場者輸送具体方針 第4版※1より）
※交通影響が想定される地点は、万博の「通常期」「閑散期」のピーク日（20.4万人、13.6万人）も合わせてチェック
※舞洲駐車場の利用を団体バスの駐車台数に応じて、団体バスの最小・最大の2ケースを検討
※万博開催中の物販車両は、夜間の時間帯に搬入。ボランティアの通勤は鉄道を利用。
- IR車両：万博開催期間のうち最大となる令和7年10月時点の車両台数（2,182台/日→**2,088台/日**）
- 物流車両：2025年までの伸び率を考慮した約11,200台/日（ピーク週の平日平均）、咲洲シフト（空コンテナシフト、本船シフト）は考慮しない
- 一般車両：2021年10月の博覧会協会調査の交通量調査結果を反映

○影響検討結果のまとめ



※ 万博来場者車両の予約枠のコントロールは、繁忙期のケース1・ケース2、通常期のケース1で実施。

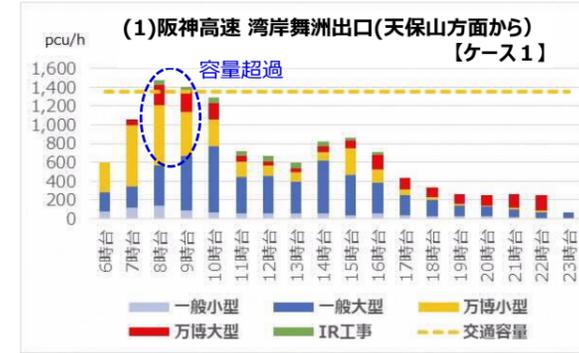
2-2 交通影響検討結果を踏まえた交通容量超過箇所への基本的な対応

【資料5】

- 前回の交通影響検討で、**繁忙期・通常期の8時・9時・10時台で容量を超過した阪神高速湾岸舞洲出口において、容量内に収まるよう、以下の対策を実施。**
- **IR工事車両の台数削減と他の高速出口の利用による調整**
- **万博来場者車両の時間帯ごとの予約枠のコントロールによる調整**

④阪神高速 湾岸舞洲出口【天保山方面から】（繁忙期）の事例

前回（R6.2時点）

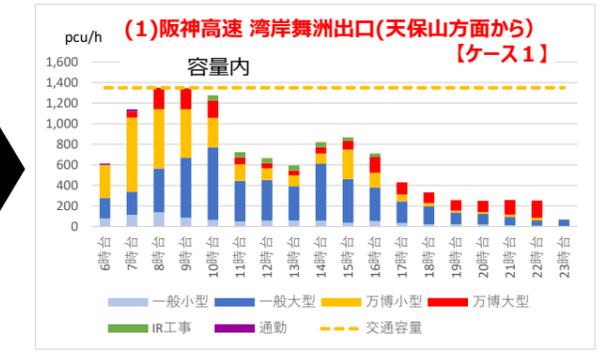


単位：pcu

	一般小型	一般大型	万博小型	万博大型	IR工事	合計	容量
8時台	139	426	644	216	52	1,478	1,350
9時台	86	582	474	210	52	1,403	1,350

今回

IR工事車両と万博来場者車両を調整し、容量内に。



単位：pcu

	一般小型	一般大型	万博小型	万博大型	IR工事	合計	容量
8時台	139	426	577	208	0	1,350	1,350
9時台	86	582	474	202	6	1,350	1,350

2-3 円滑な交通確保に向けた追加的な対応（案）【資料5】

- 今回の交通影響の推計は、来場者・IR工事・物流全てのピーク台数の予測値を合算し、**厳しい条件で行っており、このような状況が懸念される時間帯等は限定的**と考えられる。
- **しかしながら、実際の交通量には一定の変動（一般交通等）が想定されることから、不測の事態に備え、博覧会協会が今後設置を予定している「来場者輸送情報センター（仮称）」と十分に連携を取り、実際の交通情報を収集・共有のうえ、交通影響が想定される場所と時間を特定し、関係者間で調整して、交通影響の最小化を図るよう、物流車両、IR工事車両、一般交通などに対して、市として必要となる追加的な対策を検討・実施する。**